

木製の^{あ れい}亜鈴で^{けい たい そう}軽体操

亜鈴とは、「音のしない鈴」という意味の英語「ダンベル」を日本語に訳したものです。この木製の亜鈴は、「軽体操」で用いられました。小浜市の^{かみ ねごり}上根来小学校（1985（昭和60）年閉校）にあったものです。

亜鈴体操は、1860年にアメリカのダイオス・ルイスが女性・少年向け体操として^{こうあん}考案した軽体操の一部で、1878（明治11）年に来日したアメリカ人体操教師によって紹介されました。



「学校体操運動図」（複製）明治19年 歌川国利 作 原資料 玉川大学教育博物館蔵

現在のダンベルのように、^{きんにく}筋肉のトレーニングではなく、すばや
い動作を求めたため、鉄製ではなく木製で作成されました。

亜鈴の^{てきど}適度な重みではずみがつけやすく、子どもたちは、球と球
を合わせて音を出したり、リズムに乗ったりして楽しく体操しまし
た。

木製の亜鈴を使った小学生の回想

明治時代に実際にこの木製の亜鈴を使って体操をした小学生の回想が、福井市の豊^{みのり}小学校の百年史に残っています。

小学生の回想 『福井市豊小学校百年史』より

五・六年の頃の体操の時に堅木^{かたぎ}で作った「アレー」体操があつて、カチンカチンと音がするのが楽しい科目であつた。

(明治37年4月 ^{みのりじんじょう} 豊尋常小学校入学生)

